フィールドワーク[希望学] 東京大学社会科学研究所

第4回 政治は希望を語れるか

現在、世界各国のリーダーたちがいっせいに交代期を迎えている。イギリスのブレア前首相は十年、フランスのシラク前大統領は十二年の間その地位にあったが、両者とも今年、新たな指導者に席を譲った。アメリカのブッシュ大統領も、来年には二期八年の任期を終えることになる。

世界の首脳たちの顔ぶれもずいぶんと変わるわけだが、次の時代のリーダー像はまだはっきりとは見えてこない。でも、いろいろ新しい動きのようなものは感じられる。

例をあげよう。一人は、初のアフリカ系大統領を噂される、アメリカ民主党のバラク・オバマ候補である。彼は昨年、大統領選に向けて一冊の本を出している。タイトルは『決然たる希望(The Audacity of Hope)』。聞くところによれば、珍しく、この本は政治家自身が書いたものだという。

オバマ氏が一躍注目されるきっかけになったのは、2004年の民主党党大会でのスピーチである。そこで彼は、9・11と対イラク戦争以後、広がるばかりのアメリカ内部の対立に向けて、敵対する党派を非難し攻撃するよりは、むしろ分断を越えたアメリカ国民の団結の必要を訴えた。その穏やかだが力強い語り口とあいまって、スピーチは大きな感銘を与えたという。

『決然たる希望』はこのスピーチを受けて執筆されたものである。彼はこの本で、現在のアメリカの家族が置かれた経済的不安定さ、アメリカを分断する宗教的・人種的対立、そして国内と国外から押し寄せるテロリズムの恐怖に対し、どうすればアメリカ国民が分断を乗り越え、具体的な日々の諸問題の解決に立ち向かっていけるかを論じている。そこで鍵となるものとして彼があげているのが「希望」である。

オバマ氏は言う。「現在のこの場所へ、争いと憎しみにみちたこの場所へ、我々はなぜ来てしまったのかを、理解する必要があるだろう。そして、我々は一人ひとり違っているにもかかわらず、どれだけ共通の希望を、共通の夢を、そして破壊されることのない絆を分かち合ってきたのかを、思い出す必要があるだろう」。

はたしてオバマ氏が大統領選挙でどれだけ健闘するかはわからない。彼のいう「希望」が何を意味するかも、まだはっきりとしない。それでも、何か、新しい政治の語り口が模索されていることだけはたしかである。そして、彼の成功・不成功もまた、彼のいう「希望」がどれだけ説得力あるものになるかにかかっているのも間違いないだろう。

もう一人、例をあげるとすれば、フランス大統領選で敗北した社会党のセゴレーヌ・ロワイヤル候補である。彼女の選挙スローガン、そして評判になったホームページのタイトルは「未来への欲求(Desirs d'Avenir)」である。これもまた、選挙綱領としてはちょっと変わっているかもしれない。

彼女は言う。現在、フランス社会は、経済的苦境や移民をめぐる対立によって混迷している。国民は、未来についての希望や、未来にむけての生き生きとした欲求を持てないでいる。それでは、人が前を向き、未来に向けてコミットメントをするために何が必要なのか。それは、現在における人と人との結びつき、社会への基本的信頼感である。そうだとすれば、政治の課題は、そのような結びつきや信頼感を取り戻すことにほかならないのではないか、と。

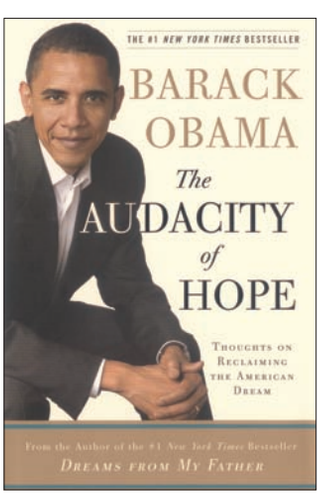
一時的には人気が沸騰したロワイヤル氏ではあるが、結局はその政治的未熟さとあいまいさをたたかれ、選挙戦の中で沈んでいった。あるいはオバマ氏も同じ道をたどるのかもしれない。

ただ二人の候補とも、人が希望を持つこと、すなわち現在の対立や不安を乗り越え、まだ不確かな未来に向けて一歩でも前へと進むための勇気をいかに持ちうるかを、素朴な言葉で問おうとしていることは無意味ではないと思う。また、希望を、人と人とのつながりの復活、社会への基本的信頼感の回復と結びつけて考えようとしている点にも注目したい。

シラク前大統領はベテラン政治家としての安心感を売りにし、ブレア前首相は「第三の道」という明確な改革プランで一時代を画した。ブッシュ大統領は、良きにつけ悪しきにつけ、9・11以後の「戦時の指導者」であった。そうだとすれば、次の時代の指導者には、それとは違う資質が求められているのかもしれない。「希望」という捉えがたいものを、説得力をもって語れる指導者というのも、その一つかもしれない。

一人ひとりの人間が、まだ見えない未来の生のかたちに向かって一歩を進み出すための勇気を支える社会条件の整備。二十一世紀の政治の課題であろう。

(東京大学社会科学研究所准教授　宇野重規)



"The Audacity of Hope:Thoughts on Reclaiming the American Dream"

米国イリノイ州選出の上院議員、バラク・オバマ氏(1961生)が、2006年に出版。30週にわたり、ニューヨークタイムズ紙、ノンフィクション分野のベストセラーにランクインした。
共和党と民主党(Republicans and Democrats)、価値(Values)、我々の憲法(Our Constitution)、政治(Politics)、機会(Opportunity)、信仰(Faith)、人種(Race)、国境の外に広がる世界(The World Beyond Our Borders)、家族(Family)といった章から成る。